意見交換会実施報告書

令和元年　８月　２８日

赤穂市議会議長　様

建設水道委員会委員長　山田 昌弘

建設水道委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和元年　８月　２１日（水）１４時００分　～１５時３０分
開催場所	赤穂市役所６階　大会議室
意見交換会テーマ	赤穂市における今後の観光について
出席委員	代表者：山田 昌弘 司会者：竹内 友江 記録者：榊 悠太
相手方団体名 及び参加者数	赤穂高等学校生徒会
主な意見等	まず、県政１５０周年記念事業平成３０年度赤穂高等学校生徒会「赤穂まちあるき計画」の内容について活動報告書をもとに以下のとおり説明があった。 「赤穂まちあるき計画」は、高校生の視点で赤穂市の明るい未来についての在り方を考察し、赤穂市に提案することをテーマとしている。スマホ向けアプリ「赤穂まちあるき」を使用しながら赤穂のまちを歩き、フィールドワークを実施。高校生視点からの意見や再発見した赤穂市の魅力について書面にまとめ、市へ提出した。 このフィールドワークに参加して初めて赤穂まちあるきのアプリの存在を知った。アプリを PR し、より多くの人に知ってもらい利用してもらうようにした方が良いと思う。 赤穂まちあるき計画での提案の１つ目は、陣たくん名所めぐり駐車場看板の設置について。フィールドワークを実施した際、花岳寺や大避神社の駐車場が分かりにくかったため、名所めぐりの統一した看板を設置してはどうかと提案した。 ２つ目は、カード払い OK の店舗を増やすことについて。今後

	の訪日外国人観光客の増加や若者へのオンライン決済の普及の現状を踏まえると、キャッシュレス決済は観光客などの利便性の向上に有効であると思う。またキャッシュレス決済では、お金の流れをデータとして簡単に把握できるメリットもある。まずは、赤穂市内におけるキャッシュレス決済可能な店舗数を調査してみてはどうか。 ３つ目は、姫路市との連携による赤穂市への集客アピールについて。姫路市に訪れる外国人観光客を赤穂に引き入れてはどうか。具体的には、バスツアーのプランを作って姫路から赤穂に来てもらう等。来てもらえれば赤穂の魅力を知ってもらえるのではないかと考える。 ４つ目は、GPS を活用したバスの現在地を把握する機能の導入について。赤穂市内で運行しているバスは、充実した面もあるが普段バスを利用しない住民や観光客には、バスの経路や発着時刻が分かりにくい。そこで赤穂まちあるきのアプリに公共交通機関の案内機能を付けてはどうかと考えた。具体的には、GPS を利用してバスのリアルタイムでの運行情報や運行ルートを視覚的に把握できる機能を提案した。観光客のみならず市民の快適な生活にも繋がり、バスの利用も促進されるのではないか。 ５つ目は、季節ごとに赤穂城跡を彩るアピールと赤穂城の巨大マッピングによる赤穂城の復元について。若年層や女性の呼び込みに繋がることが考えられる。マッピング技術により幻の赤穂城や赤穂義士の映像を映し出すイベントを開催してはどうか。 ６つ目は、その他気付いて点について。１つ目は、息継ぎ井戸の時計の時間がズレていること。２つ目は、御崎海岸沿い道路のガードレールの無い箇所があり危険と感じたこと。これについては、ガードレールを設置することで景観が損なわれる可能性も考えられ、その点が課題である。３つ目は、赤穂城跡のバリアフリーについて。赤穂城跡のバリアフリーは充実しているが、天守台の昇降については車椅子の方が昇るのが難しい。しかしエレベーターを設置すれば城跡の歴史的雰囲気が損なわれるため、どちらを優先するか難しい問題である。 赤穂まちあるきのアプリの使用感について、良かった点は、万歩計の機能と赤穂市の名所ルートがまとめられている点。不便に感じた点は、アプリの作りが全体的に大人向けに感じることとアプリの存在を知っている人が少ない点。追加して欲しい機能は、GPS 機能によりマッピングポイント等に到着すると自動音声案

	内などで知らせる機能、インスタグラムのように写真を投稿できスライドショーが表示される機能、クーポンをカテゴリ別に分類する機能、温泉や宿泊施設を一覧にまとめた機能等。 「赤穂まちあるき計画」の提案、説明は、以上。 説明後、赤穂市における今後の観光について意見交換を行った。以下主な意見。 ・赤穂観光アクションプログラムのアンケートの結果、赤穂市に対するイメージは、忠臣蔵など歴史的なものが上位となっている。しかし満足度では、食べ物類が上位を占めている。満足度の高いものが赤穂市のイメージとして定着するよう、イメージと実際の満足度との差を埋めるべきではないか。 ・赤穂観光アクションプログラムのアンケートの結果、赤穂の地域資源に対する認知度では坂越の牡蠣などが下位。しかし満足度では坂越の牡蠣が１位となっている。満足度が高いものが知られていない現状があるため PR が必要ではないか。 ・赤穂観光アクションプログラムのアンケートの結果、情報収集方法は、知人からの紹介や情報誌が上位に来ている。しかし実際若い世代はインターネット、SNS 等での情報収集が多い。文字だけではなく赤穂市の魅力を詰め込んだ動画による発信などが赤穂に観光客を呼び込むことに繋がるのではないか。 ・私自身は、相生出身であり赤穂に来るまで赤穂義士のことは知らなかった。赤穂の友達は、当たり前のように赤穂義士を知っているが、外から来た私にとっては非常に興味深いものであった。赤穂市外の人に PR すれば赤穂に興味がわく話題なのかなと思う。 ・私は姫路市出身。姫路市では小学校や中学校で黒田官兵衛について学ぶ。忠臣蔵については知らなかった。市内だけでなく姫路などと連携して市外にも忠臣蔵を知ってもらえるように取り組んではどうか。知ることによって姫路の若者が赤穂高校への進学を考えるきっかけになるかのではないかと思う。 ・たつの市に住んでいる。赤穂高校に来るまで赤穂市のことも知らなかった。友人に赤穂義士を見に行こうと誘っても来てくれない。海水浴や海浜公園等遊べるところに行きたい人が多い。赤穂市は北や東に遊べる場所がないので、若い人たちが遊べて、歴史も感じられる公園付きの資料館を作ってはどうか。 ・私は観光に力を入れるより、まず住んでもらいたいという気持ちが大きい。赤穂市は水道料金が全国で一番安いということをテ

	レビなどでも見かける。こういったことをパンフレットなどでPRしていただけたら良いのではないかと思う。 ・忠臣蔵は市外の人が赤穂市を知るきっかけになっている。しかし観光で赤穂に来ることを考えたときに、忠臣蔵のみで１日楽しめるとは思えない。そこで忠臣蔵と併せて、遊びや食でも楽しめるところがあることを PR すれば観光に来る人も増えると思う。 坂越のまちが最近インスタグラム等でも取り上げられるようになってきているので坂越のまちをもっと PR していけば良いと思う。 ・姫路から赤穂に来ようと思っても電車が３０分に一本しかない等交通手段が少ない。もっと簡単に来られるようにしたらよいと思う。 ・たつの市出身で赤穂高校に入学するまであまり赤穂のことは知らなかった。忠臣蔵も良く分かっていなかったが、資料などにより地域の人にもっと知ってもらいたいと思う。 ・赤穂には何もないと感じている。赤穂義士があることはいいことである。自分自身は赤穂に来るまで知らなかった。近隣の相生市やたつの市にも資料などで赤穂義士を知ってもらえれば色んなところから人が来るのではないか。 ・坂越に住んでいる。坂越の海は有名であるが、坂越駅から距離があり交通手段も乏しいため、バスの本数を増やしてほしい。坂越周辺にコンビニなどがないのも観光客には不便に感じるのではないか。 ・タピオカが好き。赤穂の塩を使ったタピオカの飲料を駅前で販売すれば良いと思う。大人向けではなく子ども向けが良い。 子どものころから義士の勉強を学校などでしてきたが正直あまり面白くない。それよりも写真映えするスポットに行ってインスタグラムに投稿することが流行っているので、他のまちに無い珍しいものを若者向けに発信していくことが良いと思う。 今はテレビよりもスマホの時代。ニュースは親世代が見るものと考えている。 ・忠臣蔵について、講師に来てもらって映像を見ながら学んだことがある。資料などで勉強するよりわかりやすかった。小中学生の学びの際には、映像などを活用した方が良いと思う。それと私は赤穂に住んでいるが、宿泊施設がどこにあるか等あまりよく分かっていない。海浜公園にはキャンプ場があり、小さい子どもにとっても楽しめる場所である。もっと訪問者に PR すれば家族連

	れの訪問客が増えるのではないかと思う。 ・赤穂に住んでいる。小学校のころから赤穂義士について勉強してきたが、興味はあまり湧かなかった。わざわざ見に行きたいとは思わないので、食や温泉等誰でも楽しめることに力を入れるべきだと思う。 ・赤穂のイメージに対するアンケートでは、忠臣蔵と赤穂義士が１位になっている。しかし満足度において赤穂義士祭は１０位に留まっている。満足を得られなかった人たちに対してアンケートを取ることで改善していけば良いと思う。 ・例えば赤穂をインスタグラム等で検索したとき、赤穂の PR が忠臣蔵であった場合とパンケーキであった場合、目を引くのはパンケーキの方。忠臣蔵よりパンケーキのほうが友達も誘いやすい。海浜公園などで開催されるイベントは、開催されていることを知らない人も多いと思う。特に市外からの訪問者を増やすことを考えれば広報にもっと力を入れるべき。 ・赤穂城跡と海浜公園の距離が遠いので、観光客が利用できる自転車の貸借場を市内各地に作れば利便性が高まると思う。 ・赤穂御崎にはキラキラ坂やジェラート屋さんがあり、海がとてもきれいである。例えば御崎の海とジェラートの写真をインスタグラムに投稿するとジェラートが割引されるようなキャンペーンを開催すれば、赤穂御崎の宣伝にも繋がりたくさんの人が来てくれると思う。 ・私は赤穂市に住んでおり、赤穂温泉に行かないが、市民の割引の日を作ってもらえれば市民も赤穂温泉に行くようになると思う。また市民が行くようになれば市外からの訪問者の増加にも繋がる可能性があると思う。 ・全国の高校生が集まるプロジェクトに参加したことがある。そこで赤穂の塩について発表したが、赤穂の塩を知っている人や塩から赤穂を知った人が多かった。忠臣蔵を知っている人も多かった。しかし赤穂に来たことがある人は少なかった。若者たちが興味を持つのはきらきら坂などの写真映えするところである。知っているのに来ない人が多いので、若者たちが興味を持つところをもっと PR していったら良いのではないかと思う。 ・赤穂市民なので小さいころから義士のことを学んできた。これからは視点を変えて食べ物等をもっとアピールしてはどうか。PR の方法も紙ではなくもっとネットを活用して発信するのが良いのではないかと思う。

	・上郡高校や相生高校は色んな市町の住民で構成されているが、赤穂高校は赤穂市民が多い。これは、赤穂は住みやすく赤穂の外に出る必要がないからではないか。 赤穂が今後住みやすいまちを目指すか観光のまちを目指すのかは難しい問題であるが、若者としてはやはり遊びの場所が欲しい。観光の面に関しては食等を大切にしていくことが良いと思うが、それに特化することにより失われる赤穂の良さもあると思う。 新幹線を開通させる等すごいものを作るのは難しいが、例えば今日の意見の中でも出たタピオカ屋やジェラート屋を作ることのような比較的簡単なことから始めるのが良いのかなと思う。 ・赤穂緞通を知らない赤穂の子が多いように思う。赤穂緞通に限らず赤穂にはいいものがたくさんある。しかしそれをうまく宣伝することができていないのが惜しい。 赤穂観光アクションプログラムのアンケートでは、調査対象の年齢が２０歳～となっている。１０代はお金をあまり持っていないが、数が集まれば大きな額になると思うので１０代をターゲットにすることも考えた方が良い。 ・赤穂観光アクションプログラムの認知度のアンケートを見て、上位に入っているのはお年寄りが楽しめるものが多いと感じる。赤穂の観光客を増やすことを考えると、認知度で上位に入っているものでは若い人は余り楽しめない。もうそろそろ赤穂義士や赤穂の塩に力を入れるのはやめて、若者を集められるように力を入れた方が良い。自分が旅行をする時のことを考えると、赤穂義士など歴史的なものだけでは旅行に行かないと思う。それに加えて若者楽しめる何かが欲しい。 また出かけるときは、買い物や趣味が楽しめる場所を求めて出かけることが多いが赤穂にはそのような場所が少ない。若者が楽しめる場所を作ることは観光客を集めることに直結するのではないかと思う。 ・赤穂の観光スポットは距離が離れているがバスの本数が少ない。もう少し増やした方が良い。 ・赤穂をアピールするのであればもっと食べ物等を PR していった方が良いと思う。インスタグラムが流行っており若者はインスタグラムをとおしていきたい場所を発見することが多い。赤穂の牡蠣や塩を若者向けにおしゃれにアレンジして、インスタグラムに投稿したくなるように、またその投稿を見た人が赤穂に来たいとおもえるように PR することでもっと赤穂を広めていけるので

	はないかと思う。 ・赤穂義士は教科書にも少し出てくるが、小中学生は、勉強が好きでない子も多いのであまり覚えていない。他市の小中学校で忠臣蔵の劇をするとともにその劇の中に食べ物など他のアピールできるものを混ぜ込むことで赤穂への観光客も増え経済効果もあるのではないかと思う。 ・インスタグラムでは食べ物だけでなく景色をアピールすることも効果的である。良い景色の写真が投稿されていたら自分も行ってみたくなる。「いいね」が沢山もらえるスポットを作れば訪れる人も増えると思う。 公衆トイレの数を増やした方が良いと思う。またトイレが清潔に保たれていないと印象が良くない。 ・ふるさと納税を活用すればよいと思う。ふるさと納税の返礼品に赤穂市のパンフレットを入れてはどうか。私も宮城県にふるさと納税をしたことがあり、返礼品の牛肉が美味しかったことから宮城県に行きたいと思った。 ・今日の話を聞いていると市外から来た生徒は忠臣蔵に興味を持っている方も多い。しかし自分も含めて、赤穂市民は子どもの頃から忠臣蔵を勉強していることから忠臣蔵に対して興味関心が薄い。赤穂市での義士教育の密度を薄めれば赤穂市の子も自分から忠臣蔵に興味を持つのではないか。 ・住人を増やすよりまずは、観光客を増やして赤穂を知ってもらうことが大切だと思う。 忠臣蔵については、考え方が硬く難しいイメージがある。例えば忠臣蔵が姫路にあっても自分は見に行かない。有名人などと赤穂の何かを掛け合わせる等の工夫が必要だと思う。有名なものを通じて赤穂を知ってもらうような取り組みが赤穂には足りていないのではないか。それができれば忠臣蔵も柔らかいイメージになる。若い人が興味を持つ有名人は、個人的には米津玄師や霜降り明星だと思う。義士祭に高橋英樹が来ても面白いとは思えない。 ・食べ物の話が多く出ているが、赤穂市の中で食べられるものだけでなく、市外の人にアピールできるようなお土産を充実させることも大切だと思う。
委員会のコメント	赤穂高等学校の生徒会の皆様と意見交換会を行った。市内在住の生徒と市外からの生徒の割合は、概ね６：４（市内：市外）であった。 まず様々な意見が出た中で感じたのは、市の PR が若者に行き

	届いていないことである。多くの生徒から忠臣蔵や食、水道料金の安さなどについてもっと PR するべきではないかと意見が出た。市としては PR を行っているのかもしれないが、それが若い層には伝わっていないことが今回の意見交換会で明らかになった。 　また PR の方法についても指摘があった。今の若い世代の情報収集は、パンフレットや情報誌等によるものではなく、ほとんどがネットでの情報収集であるとのことであった。ネット上の情報についても文字ばかりの情報ではなく、インスタグラムなど SNS に投稿された動画や写真により情報を得ることが多く、その方が若い層にとっては効果的であるとの意見が多く出た。 　これから若年層をターゲットとした観光 PR を行う際には、紙ベース、文字メインの広告などではなく、インスタグラムを活用し、赤穂にあるおしゃれな店、綺麗な景色、美味しい食べ物をアピールしていくことが最も効果的であると感じた。またインスタグラムでの投稿を割引に結び付ける案も出たが有効であると感じた。 　次に、赤穂の最も有名な観光資源である忠臣蔵、赤穂義士について、若者たちの率直な意見を伺った。市外から来ている生徒については、興味があると言う意見もあった。しかし大半は興味がなく、忠臣蔵や赤穂義士よりも、若者は買い物、遊び、美味しい食、おしゃれな場所等を求めており、忠臣蔵を PR されたからと言って赤穂に行きたいとは思わないと意見が出た。中には忠臣蔵や赤穂義士に力を入れるのは、やめた方がいいと言う意見もあった。特に気になったのは、市内在住の生徒に否定的な意見を持つ者が多い傾向が見られたことである。原因としては、市内在住の生徒は小学校から義士教育を受けているため赤穂義士＝勉強のイメージが強く、良い印象を持っている生徒が少ないことが考えられる。これについては、義士教育の在り方についても検討していかなければならないと感じた。 　赤穂義士を観光に活かす方法としては、赤穂義士だけでは観光に行きたいと思えないので、赤穂義士に何かを組み合わせて PR することが必要ではないかと意見があった。例えば、赤穂義士とともに食べ物や遊べる場所、有名人等を組み合わせることでより人々に興味を持ってもらう案である。現在も義士祭では、高橋英樹などの俳優を義士行列に起用する等有名人と義士との組み合わせ一定の効果が出ているとは感じるが、若い世代が興味を持つ有

	名人とは異なるとのことであった。 　若い世代にとっては、忠臣蔵や赤穂義士はそれ単体では興味を持てるものではなくなってきていることから、これらの資源を若者向けに活かすのであれば工夫が必要になってくる。現在市が誘致を行っている忠臣蔵の大河ドラマ化で、若者が興味を持つような俳優や女優を起用することができれば、若者たちが持つ忠臣蔵、赤穂義士のイメージが変わるかもしれない。 　意見交換会では、他にも交通機関、また交通手段の利便性の向上に対する意見や赤穂の塩と今若者の間で流行っているタピオカミルクティーを組み合わせ販売する提案等、数多くの発言があった。 　赤穂高校の生徒と意見交換をすることは初めての試みであったが、若者の正直な意見や画期的な提案、また今の若者の在り方について意見を交わすことができ非常に有意義な意見交換会であった。今回お聞きした意見は、今後の赤穂市政発展のため有効に活かせるよう努力していきたい。